



イルカスタジアムを彩る夏限定のイベント「ウォーターカーテン」。光と音の幻想的な空間に京都芸大音楽学部岡田幸世さん作曲の幽玄な雰囲気BGM「うつろい、結ぶ」が流れる。



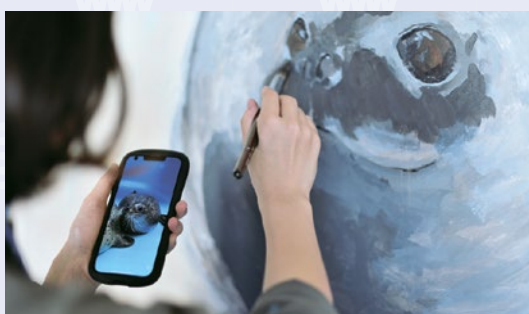
アザラシ・オットセイの生態を紹介するイラストボードに取り組む京都芸大美術学部の西川萌生さん・橋本唯瑠さん・森川深雪さん。お客様にも見守られながら制作された。

未来への一歩として、 若い力と新たなチャレンジ



この夏、梅小路公園に隣接する京都水族館で、京都市立芸術大学の学生と連携した企画が行われた。その内容や地域とのつながりなどについて、同水族館の白土久美子さんに語ってもらった。

白土久美子さん 京都水族館
企画広報チーム長



Ⅰ 芸大生のBGMとイラスト。

一つ目の企画は、人気のイルカスタジアムを彩る夏限定のイベント「ウォーターカーテン」で使用する楽曲を学生が作曲するというもの。作曲したのは京都芸大音楽学部作曲専攻4回生の岡田幸世さん。京都駅の東部エリアを流れる高瀬川とその周辺の風景をイメージし、もともとある街に京都芸大が移転することで街並みと融合していく様子を表現した。「京都の未来と過去をつなぐような幽玄な雰囲気の音楽です。夏の夜のウォーターカーテン越しに見える、ライトアップされた東寺の五重塔に映えるBGMでした」と白土さんは話す。

二つ目の企画は、アザラシとオットセイの生態を紹介するイラストボードを学生が描くというもの。取り組んだのは京都芸大美術学部油画専攻3回生の西川萌生さん・橋本唯瑠さん、そして日本画専攻3回生の森川深雪さん。事前に飼育スタッフから個体の特徴を聞いたうえで、お客さんにも見守られながら制作した。「日本画風のデザインで、いきものに興味を持っていたようなイラストになった。営業時間中の制作であったので、お客さまと学生が話をしたりして、ふれあいながら描かれていたのが印象的でした」と白土さん。

京都水族館は、これまでも京都芸大と連携し、イベントを行なっていましたが、今回のような芸大生と手を組んで館内の掲示物などを制作する取組は初めてのこと。

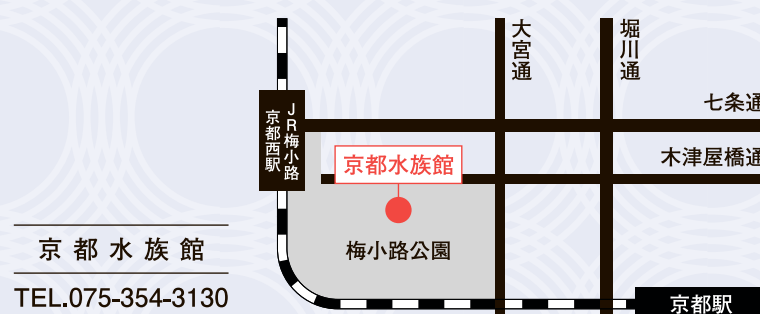
Ⅱ 水族館で創作のヒントを。

水族館はレジャー施設であると同時に環境教育施設という役割を持つ。「例えば、水槽の仕組みから海や川の豊かさを考えるなど、SDGsの観点から水族館のいきものをとおして、地球で暮らす全てのいきもののためにどんな未来にしたいのか、そのために何ができるのかを考えていただ

くような取組も行っています」。芸術を志す学生さんにも水族館を創作の場として活用してほしいという。「まちなかにながら本物を見られるのが水族館の魅力です。「京都の川や海にはこんないきものがいるのか」という驚きや発見が創作につながればと思います。もちろんデートで来てもらうのも大歓迎。日が暮れると雰囲気がグッとよくなるし、クリスマスやバレンタインデーなどはカップルでいっぱいですよ(笑)」。

Ⅲ 地域と共に歩んだ10年。

平成24年(2012)に京都水族館が開業した後、梅小路京都西駅や宿泊施設の開業など、続々と梅小路周辺に賑わいが生まれてきた。「休日には梅小路公園の周りをオオサンショウウオのぬいぐるみを抱えて歩く家族連れをたくさんお見かけするので、弊館が微力ながら地域活性化のお役に立っているのかもしれない」と白土さんは笑う。そして、これまでの道のりは地域と共に歩んだものであったと続ける。「毎日のように来館される年間バスポート利用者の方も数多くいらっしやり、そんな方の『もうすぐヒナが生まれるんだって?』とか『最近見ないけど〇〇さん元気?』といった何気ない言葉が飼育スタッフの励みになり、もっといい水族館にしようというモチベーションにつながっています。これからも公園のように普段使ってもらえるような水族館を目指していきたいです」。



京 都 水 族 館
TEL.075-354-3130

京都駅周辺エリアの
カルチャーを発信

5 to 9 +

The Kyoto Station Area CULTURE JOURNAL

京都駅周辺エリアで生まれた “地域×アーティスト”の活動。

Ⅱ ページ | …… 福祉施設×落語

Ⅲ ページ | …… ホテル×音楽&アート

Ⅳ ページ | …… 水族館×音楽&アート



November 2023

vol.
10

表紙写真: 京都女子大学 落語研究会 会長 戸倉選手(藤乃家歩和鈴)さん(2ページ参照)

【問い合わせ先】▶ 京都市総合企画局プロジェクト推進室 TEL.075-222-3176(土・日、祝を除く 午前8:45～午後5:30) FAX.075-213-0443
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地 ☒project@city.kyoto.lg.jp

この夏、崇仁デイサービスうるおい(下京区崇仁学区)、島原のぞみデイサービス(下京区大内学区)、東九条のぞみデイサービス(南区山王学区)にて、京都女子大学(京女)の落語研究会(落研)による落語会が行われた。同落研の戸倉遙子さんに落語会への思いについて語ってもらった。

先輩からの継承を大切にし、落語で地域を盛り上げていきたい



とくらはるこ
戸倉 遙子
ふじのやばわれ
(藤乃家歩和鈴)さん
京都女子大学 落語研究会 会長
香川県出身
京都女子大学文学部国文学科3回生

先輩から代々継承。

京女の落研は今年創部51年目を迎えた老舗の部活。高座にもあがった同研究会会長である藤乃家歩和鈴こと戸倉遙子さんいわく「これまでに多くの先輩方が巣立たれ、その中には露の瑞※さんのようなブロの噺家さんもらっしやる」とのこと。京女の落研では会独自の寄席や他大学との合同寄席に加え、市内の施設等で落語会を行っていて、この取組は「先輩から代々受け継いでいる」もの。取材当日は島原のぞみデイサービスの会場で『寿限無』と『平林』の二つの演目を披露した。「皆さん熱心に聞いてくださり、最後に『面白かったわ』といってもらえ本当にうれしかったです」と、えびす顔の戸倉さん。落語の後は「どうして落研に?」とか「好きな噺家さんは?」といった質問に軽妙な語り口で答え、和やかな雰囲気の中で落語会は幕を閉じた。

(※露の都の4番弟子。天満天神繁昌亭などで活躍中)

まちをまわって、狙うは一石二鳥。

ここ数年のコロナ禍で直接お客さまを前にした落語会ができなかったという。「大学の文化祭もリアル開催ができず、落語の映像発信だけでした。後輩のなかには一度もお客さまの前で披露できていないメンバーもいますし、やはりお客さまの前で実際に話さないと上達しません。こういった地域の施設で落語会ができるのは大変ありがたいので、これからも続けていきたいです」と戸倉さん。



落語会のあとには施設利用者との交流会も実施された(島原のぞみデイサービス・8月3日)。



東九条のぞみデイサービス(8月22日)での落語会。

落語には“まくら”がある。お客さんの反応を探るため、本題に入る前に面白おかしく自己紹介をしたり世間話をしたりする部分が“まくら”だが、戸倉さんは今後、地域で開催される高座にそのまちの話を“まくら”に取り入れたいという。「お客さまには年配の方が多く、しかも私は香川の生まれなので皆さんと共有できる話題がありません。そこで、皆さんがお住まいのまちを歩いて感じたことを話したら面白いのではと考えたんです」。これまでに大学がある東山区や下京区のまちを訪ね、「とある八百屋さんとびっくりするほど安いグレープフルーツを見つけたり、昔ながらのかき氷屋さんに立ち寄ったりして、地元の人しか味わえないような体験を幾つもしました」と戸倉さん。歩くことでそのまちが好きになり、落語会もさらに盛り上がる。そんな“一石二鳥”を狙い、時間があるときに“まくら”のネタ探しをしているそうだ。

共に楽しい大学生活を。

10月に京女の近くに開学した京都市立芸術大学にも、同じ大学生としてこんな期待を寄せる。「せっかくご近所さんになったんだから、学生同士がいろんな交流をとおしてお互いに、楽しい大学生活を送ることができればいいなと思います。例えば、無理は承知の上ですが、音楽学部の人にお囃子に使う太鼓や三味線を教えてもらえればうれしいですね。自分にはない考えを持っている学生がたくさんおられると思うので、そういった人たちとつながることで、オリジナルの落語をつくるヒントが得られるかもしれません」。地域における大学同士の繋がりによって今後生まれる動きにも期待したい。



新たな取組として始まった京都芸大美術学部の学生の作品展示。ホテルのロビーは華やかになり、学生の優れた絵画作品に目を留めるお客さんも多い。



ホテルのロビーで開かれる京都芸大音楽学部の学生有志による「小さな演奏会」は、回を重ねるごとにリピーターの数も増えている。

おもてなしをとおして地域に根差すホテルでありたい



10月に京都駅周辺エリアに移転した京都市立芸術大学にも近い京都駅八条口前の「都ホテル 京都八条」では、京都芸大音楽学部の学生有志による「小さな演奏会」を開催している。同ホテルの小城恵さんに、演奏会への思いと今後の取組について伺った。

こしろうけい
小城恵さん
都ホテル 京都八条
マーケティング部 サブリーダー

根根を越える音楽の力。

「小さな演奏会」がスタートしたのは令和4年の12月。これまでの出演者はクラリネット+バイオリン+ピアノのトリオ、弦楽四重奏団、カホン(ペルー発祥の打楽器の一種)を取り入れたグループなど、ピアノ、弦楽器、管・打楽器の各専攻を有する京都芸大音楽学部ならではの顔ぶれ。「演奏される楽曲もクラシックからジャズ、ポップスまでさまざまです。家族連れのお客さまが多いときは馴染みのあるアニメの映画音楽を演奏してもらいました」と小城さん。週末の午後、ホテルのロビーで開かれる演奏会では、毎回のように印象的な瞬間に出会うという。「偶然隣り合った方同士で楽曲の題名を教えあったり、小さなお子さまが手拍子を始めるとその輪が自然に広がったり。そんなときは垣根を軽々と越える音楽の力に触れたようで、温かい気持ちになります」。回を重ねるごとにリピーターの数も増え、中には“未来の音楽家”にサインをもらう人もいるそうだ。

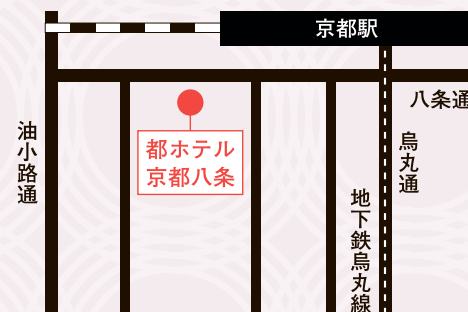
ご近所さんに貢献したい。

演奏会を企画したきっかけについて、小城さんはこう語る。「昨年発行された『5TO9』(京都駅東部・東南部エリアのカルチャーを発信する京都市の広報物)を拝見する中で、京都芸大の学生さんが移転周辺地域の方々に対して、音楽をとおして京都芸大をアピールしたいのと同時に、音楽を身近に感じることでその楽しさを味わってほしいと願っていることを知りました。それは、おもてなしをとおして地域に根差すという弊ホテルの姿勢に共鳴するものだったので、学生さんの活動をサポートしたいと考えたんです」。ホテルには国内のみならず世界各地からの宿泊客とともに、多くの“ご近所さん”が訪れる。「レスト

ランや宴会場を日常的に御利用くださる地元の方々がたくさんいらっしゃるんです。演奏会の開催には、あらゆるお客さまに心豊かなひとときを提供したいという思いと、京都芸大の学生さんと志を一つにして地域社会に貢献したいという思いを込めています」。

ホテルの外に飛び出して地域を盛り上げたい。

9月からは京都芸大の学生さんとの新たな取組として、美術学部生の作品展示を行った。「ホテルとしては絵があることでロビーが華やかになり、学生さんには作品を多くの人に見てもらう機会につながり、お客さまには優れたアートに親しんでいただける。そんな“三方よし”の企画になったと考えています」。さらに小城さんはこんな思いを持っている。「弊ホテルは令和7年(2025)に創業50周年を迎えます。これまでの地元の方々からいただいた御支援への恩返しとして、今後はわたしたちがホテルの外に出て地域を盛り上げていきたいですね。そのときには京都芸大の学生さんのお力もさらにお借りたいと考えているところです」。



都ホテル 京都八条
TEL.075-661-7111